

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

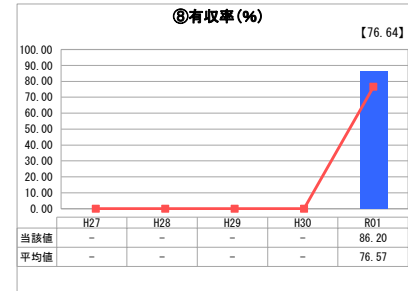
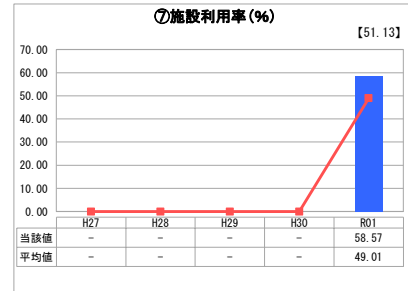
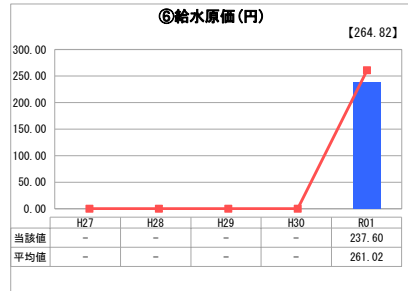
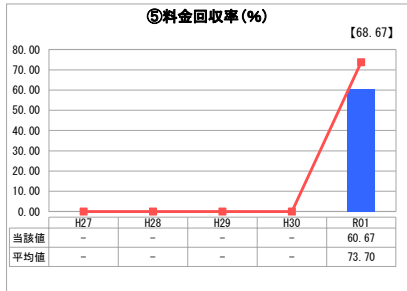
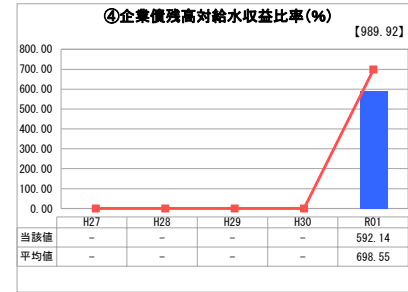
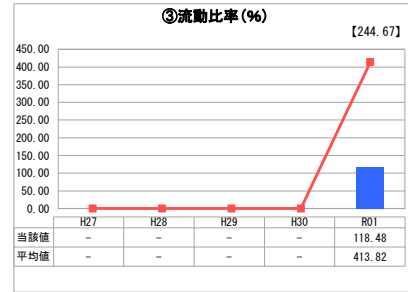
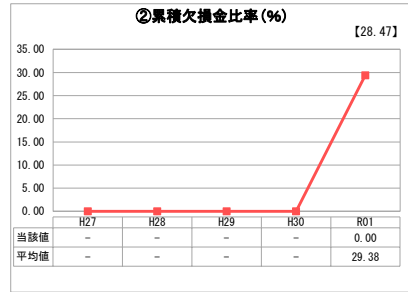
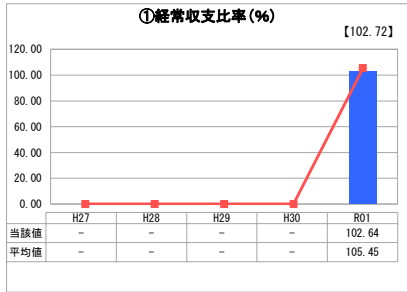
宮崎県 日向市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)	
-	60.14	4.67	2,310	

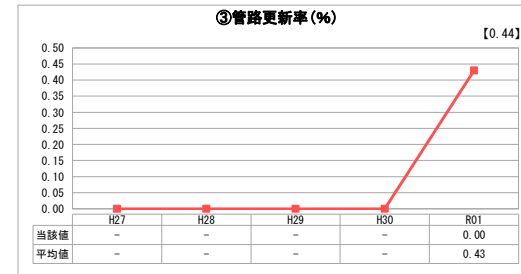
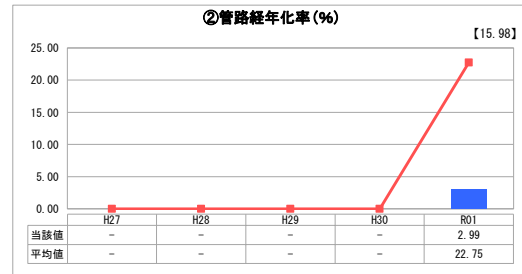
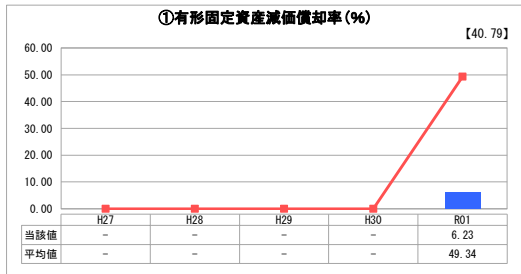
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
61,283	336.94	181.88
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,842	16.85	168.66

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

給水区域が中山間地で人口が少ない過疎地域という地理的な条件を背景として、「経常収支比率」及び「流動比率」は共に100%を超えているものの「料金回収率」が60.67%であることから読み取れるように営業収益だけでは費用を賄うことが困難であり営業外収益により経営を保っている状況にあります。

「企業債残高対給水収益比率」については全国、類似団体平均より低い比率ですが、これは「管路更新率」が低値である状況から起債を伴う管路等施設の更新が進んでいないことを表しています。

「施設利用率」は、平成24年に認可変更届を行い、利用率の適正化を図った施設があること等により、類似団体平均より高い値となっています。

「有収率」については、ほとんどの施設が昭和60年代以降に設置した施設であること、配水量の監視により早期の漏水対応に努めた結果、類似団体等の平均より高い数値になっています。

これらのことから、厳しい経営環境の中で事業を維持している状況ですが、今後、簡易水道統合整備や老朽管路更新の増大が予想されるため、企業債の活用を含めた財源の確保に取り組む必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

ほとんどの施設が昭和60年代以降に設置されており、「管路経年化率」は全国平均、類似団体平均と比較して低い水準にあります。

当年度の「管路更新率」は0%ですが、今後増大することが予想される老朽化への対策については、簡易水道施設統合整備事業等の施設整備と併せて実施する必要があります。また、新たな財源の確保も厳しい状況にあることから、計画的に事業を行う必要があります。

## 全体総括

地方公営企業法を適用して1年目の決算の状況であり、給水収益だけでは費用を賄うことが困難な簡易水道の特徴が顕在化しました。

給水収益と企業債のほか、一般会計からの繰入金等を財源として事業を維持している状況です。

今後、中山間地域の人口減少の加速化や施設の老朽化が進むことが予想されており、安定した水の供給のためには、施設統合や老朽管路更新をはじめとする施設整備が必要となるため、計画的な事業運営と財源の確保を図り安定経営を目指します。